



浄福寺
門徒会発行
☎ (025) 536-2532
FAX (025) 536-2674
✉ jofukuji@alpha.ocn.ne.jp

第11回 「本願寺念仏奉仕団と
京都の旅」に参加して



大谷光淳ご門主と記念写真

浄福寺で第11回目となる「本願寺念仏奉仕団」に12名で参加しました。今回は、今までにない不思議なご縁による出来事の連続で、本当に楽しい3日間でした。

3月7日の早朝に柿崎を出発して、その日の午後には本願寺に入りました。全国から参加されましたので、先ずは各団体の自己紹介から始まりました。今回の団体参拝には、偶然にも昨年長男が結婚した加奈恵さんのご実家のお寺からの参加がありました。お母さんの山神さんも参加されていて、初参加だったそうです。

自己紹介ではうちは原政幸さん、向こうはなんと山神さんがでて、じゃんけんの後、自己紹介をされました。原さんがとても上手に上越のことや、浄福寺が親鸞聖人のご旧跡の寺院であることなどを紹介してくれました。

念仏奉仕団では、その団体ごとに本願寺から違う色のタスキが配られますが、浄福寺は紫、山神さんたちは赤でした。山神さんは「広島と言えば、サンフレッチェ広島と広島カープ」と言って、赤のタスキを皆さんに広げて見せました。とてもユーモラスな楽しい紹介で、会場の人たちを笑わせていました。加奈恵さんがこの方の娘さんで良かったと思いました。

翌朝のお勤めの後に帰敬式（おかみそり）がありました。今回は、月に一度だけの前門主様の御出座にあたり、前門主様が「おかみそり」をして下さいました。うちからは5名の方が受式されました。帰敬式では、木村芳明さんが代表して前門主様より全員の法名

を受け取りました。

また、受式者の決意を述べる帰敬文というのがありますが、それを山神さんが大勢のなかで堂々と読み上げました。ちなみに、木村さんの法名は「釋勝友」でした。お釈迦さまは「仏法を聞いて、敬う人は、私のよき親友なり。」とおっしゃいました。そこから頂いた、とてもいい法名でした。

ご門主様との記念写真のときに、ご門主様がまだ学生のとときに浄福寺にいられた時の写真をお見せして、「この子（大智）が今、この式務部におります。」と挨拶させていただきました。

今回の奉仕団は、偶然に山神さんにお会いしたり、長男が皆さんの前でお勤めしたり、また大谷本廟では、私と長男が一緒に本堂のお内陣でお勤めさせて頂いたり、私にとっても不思議な3日間でした。「もういつ死んでもいい」と思いました。参加して下さった皆様に心より感謝申し上げます。

また12回目を計画したいと思っておりますので、ご本山に参拝されたいことがない方も是非素敵な体験をするために参加してください。

住職



唐門の前で

「本願寺念仏奉仕団と京都の旅」
に参加して

浄福寺常任委員として2年目を迎え、初めて「本願寺念仏奉仕団」に参加致しました。全て初体験。奉仕活動、終了後本願寺のご好意により国宝屏風絵、能舞台の拝観、更にお抹茶接待を受けました。本願寺早朝のお勤めでは、大智君が皆のトップとして読経され、浄福寺の参加者は彼の成長した姿を見て安心致した次第です。奉仕活動終了後、大谷本廟で前坊守、大杉さん、他の参加者の家族の頂骨の納骨。本廟では守真長、陽雄住職、大智君が内陣にて雅楽演奏の中読経されました。

我々参加者には講話、そして本廟でもお抹茶接待と貴重な体験をさせて頂きました。尚、本廟では、ハプニングで新婚さんのビデオ撮影現場に遭遇し、全員で「おめでとう」の声を上げて2人の前途を祝いました。

2日目の宿泊先は琵琶湖湖畔「琵琶湖グランドホテル」。偶然にも陽雄住職の誕生日を祝い、3日目は紫式部ゆかりの石山寺参拝、パウムクーヘンのラコリーナで買い物と貴重で楽しい3日間でした。

3区 木村芳明



左から 龍島秀司さん 原政幸さん 木村芳明さん
小池やい子さん 山神さん 今川ミヨ子さん

死は存在しない その3

先に逝った人たちから私たちは大切な贈り物を頂いています。

若松英輔さんは「悲しみは辛い。しかし意味にあふれている。悲しみは光が訪れる最初の合図かもしれない。」とおっしゃっています。

光とは、仏さまの呼び声であり、願いであり、いのちであり、波動であり、光そのものです。ただ、光は私たちの目に見えません。けれど、光はコトバを通して触れることができます。

「死者との邂逅(かいこう)のために、私たちはいくつかのコトバと出会い直さなければなりません。それは、コトバを通して死者と向き合うのではない。むしろ、光はコトバの姿をまとめて私たちの世界に顕れるからである。」

邂逅とは、出会うという意味です。私は、法事やお通夜などいろいろなコトバを紹介しています。お通夜では「仏説阿弥陀経」をお勤めしますが、その経典には

「その時、仏は、長老舍利弗に告げたまう。これより西方、十万億の仏土を過ぎて、世界あり。名づけて極楽という。その「国」に仏ありて、阿弥陀と号す。いま、現に在まして説法したもう。舍利弗よ。かの「国土」をなにごゆえに名づけて極楽となすや。その国の衆生、もろもろの苦しみあることなく、ただもろもろの楽しみを受く。ゆえに『その仏国土を』を極楽と名づく。」と書かれています。

十万億土とは、距離ではなく、私たちの汚れた心と仏様の清浄の心を示しています。仏さまは、汚れた心をもった私たちを見捨てず、いつも語り掛け、呼びかけて下さっており、そのお話を聞く者は、苦しむことなく、様々な楽しみを得ることができると説かれています。

前回から紹介しています、量子力学の工学博士である田坂広志さんは、次の様におっしゃっています。

「真の私は死なないということを知るだけで、希望と安心を得ることができ、人生の生き方が変わってくる。執着や欲が深いことやネガティブな思考では、ゼロ・ポイント・フィールドよりの運氣を引き寄せることは出来ない。ポジティブに考えることによって、ゼロ・ポイント・フィールドよりいい運氣と繋がっていく。『考え方を改め、心を変えるだけで、いい方向に向かう。』それに必要な行為は、念ずる(合掌)ということ。大いなるいのちを抛り所として、感謝し導いてもらうという行為が念ずるのである。それがいい方向に好転していく。」

ポジティブに生きるとまだまだ人生が好転していきます。そのために必要な行為は、感謝することだと田坂さんは示されています。現代人は、だんだんこの感謝するという事を忘れていくように思います。よく「お墓の守りをしないといけない」と言いますが、それは逆で、お墓にお参りすることによって、人の心が育てられるということなのです。

時代が変わり、生活環境が変わりました。そのために人の心も変わってきました。

法事などの仏事を勤めることは大切です。出来たら、若い人たち、子供たちや孫たちも呼んで、お勤めしてほしいと思います。そうすることによって、いのちが先人たちとつながっていきます。そうして、人生がいい方向に導かれていきます。田坂さんは、講演でよく「大いなる何かに導かれる」とお話しされています。このことは次号で書きたいと思います。

次号第54号に続きます。



大阪の実母が96歳で浄土に往生しました。

母(和田千枝子)は、よく最後まで頑張ってくれました。兄と義姉も最後までよく面倒をみてくれて、とても感謝しています。母が亡くなったことで、実家ともだんだん疎遠になっていきますし、私も帰るところがなくなってしまうしました。坊守に浄福寺から追い出されたら、ホームレスになりますので、坊守にしがみつきたいと思います(笑)。

在家から嫁いだ母は、私と兄を愛情いっぱい育ててくれました。子供の頃には、たくさん心配やら迷惑をかけました。また、夫(私の父)が52歳で亡くなった後、僧籍を取得して、慣れないお参りをしながらお寺を守ってくれました。母には、心より感謝しております。

母は、晩年には絵を描いたり、旅行に出かけたりしていました。そんな母の絵を私も数枚もらいましたので、時々浄福寺に飾ったりしています。

私の結婚式の前々日に、母は叔母(実の妹)と一緒に車で来たのですが、車の中で「引き返すのなら今のうちやで」と冗談交じりに言っておりました。私の二女が岐阜羽島に嫁ぐことになり、その時に母に「おかあちゃん



の気持ちよくわかったわ」と言ったら、「そやろう」と言っておりましてあれは本音だったのですね。そんな母でしたが、今年4月21日に浄土に往

生しました。享年96歳でした。おかげさまでこちらで住職として大事にされながら元気でやっていますと報告し、感謝申し上げました。ちゃんと聞いてくれてるように思います。

23日に大阪で葬儀を終え、自坊へ帰ってきたのが夜中の1時でした。その時、庭の八重桜が満開でした。そしてその隙間から満月の月が見えました。まるで母のように思いました。仏教用語に「月愛三昧」という言葉があります。仏さまの慈悲の愛情を月の灯りに譬えた言葉ですが、本当にずっと母が今も見守ってくれている気がしております。

「人を失った悲しみの深さは、生前にその人からわが身が受けていた贈りものの大きさであった。」

この言葉は、浄福寺の母が亡くなった時に、葬儀の導師をして下さった源正寺様のご住職が紹介して下さいました。とても身に染みます。



合掌

第七回 手しごと・手づくり 柿崎・上越作品展が開催されました。

九月十三日(金)より十五日(日)まで浄福寺で開催されました。とても残暑が厳しい中、約七百五十名の方が来て下さいました。

この作品展を開催するにあたり、スタッフの皆様は、前々日より搬入や本堂にあるものの移動などの準備、また、期間中はずっと待機して下さい、終わった後も片付けや掃除をして下さいました。皆様方には、心より感謝し御礼申し上げます。また、出品して下さいました皆様にも心より感謝申し上げます。

どなたの作品もすばらしかったです。おかげさまで、来られた皆さんが楽しんでくださいました。でも、一番楽しんだのは私だと思います。浄福寺としても地域の活性化に役立ててよかったですと喜んでいきます。今年、糸魚川でヒスイのお店をされている「みどり店」の伊藤豊昭さんに来て頂き、ヒスイの原石や勾玉などの展示即売をお願いしました。ある時、ヒスイが五億年前に生まれた石だと知って興味を持ち始めました。そのうち国石になり県の石になり、すっかりヒスイの沼にハマってしまいました。

また、その他に、特別出品ですが横浜から梅澤康栄さんが「人形」を展示即売して下さいました。どの人形もとても味わい深く、ユニークで心が和まされました。とりわけ、「ミナムシ」が面白かったです。一つひとつの顔が違っていて、本当に愛嬌のある顔をしており、孫に似ている顔を選んで購入しました。どれもみな素晴らしい作品で、とても楽しい三日間でした。

皆様の中で「私も是非展示したい」と思う方があれば、実行委員長の方角張寛美さん(角取)または小竿隆さん(川田)か、私に申し出て下さい。関係者や参加して下さいました皆様に心より御礼申し上げます。



浄福寺清掃奉仕の御礼と 次回のお願い

令和6年6月9日(日)に報恩講前の清掃奉仕を実施しました。川井・高寺・落合・川田・柳ヶ崎・阿弥陀瀬・荻谷の26名のご門徒さんと常任委員11名の方が来て下さいました。

いつも皆様から助けて頂き、心より感謝し御礼申し上げます。今まで3回来て頂いた方には、本願寺より取り寄せた記念品をお渡ししました。

また、次回のお煤払い清掃奉仕は12月8日(日)に4区・5区のご門徒さんをお願い致します。何卒ご理解・ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。



第66回『有縁講』のご案内

昨年は、赤倉ホテルより65周年の記念品をいただきました。また、先日、先々代の女将さんの葬儀が営まれました。ホテルの発展のために尽くされた方です。そのお気持ちに伝えるためにも、大勢で参拝したいと思います。どうぞお誘いあわせてご参加下さい。



記

期日 令和6年11月11日(月)〜12日(火)
費用 20,000円程度の予定
(バス代高騰のため)
持ち物 11日の昼食 お念珠 着替え 洗面道具 保険証 常備薬 マスクなど
集合場所 11日柿崎地区公民館前10時出発
帰りは12日柿崎着16時半頃
長野県上田市の浄楽寺様(先代住職の弟の寺院)と上田市内散策の予定
宿泊場所 赤倉ホテル(☎02551872001)
申込みメ 10月15日 定員 25名

第12回『チャリティーコンサート』 in 浄福寺』のご案内

今年も皆様に元気と希望をお届けしたいと思い、「チャリティーコンサート」を左記のとおり開催致します。演奏者の皆さんが、すぐくパワーアップされています。今回は二胡の演奏もありますので、どうぞお楽しみに。

会場ではマスクと消毒液を用意し、入場時に検温をさせていただきます。
空気清浄機も設置しておりますので、多数ご来場下さいますようご案内申し上げます。
入場無料ですが、募金箱を設置して「世界の子供たちにワクチンを 日本委員会」に寄付をしたいと思っておりますので、皆様からのご協力をよろしくお願い致します。(なお、このワクチンは、新型コロナウイルスのワクチンではなくて、ポリオワクチンです。)

今年も皆様に元気と希望をお届けしたいと思い、「チャリティーコンサート」を左記のとおり開催致します。演奏者の皆さんが、すぐくパワーアップされています。今回は二胡の演奏もありますので、どうぞお楽しみに。



ワクチンで助かる命を救いたい。

記

日時 11月10日(日) 13時30分開場 14時開演
会場 浄福寺本堂
出演者 クレア(ギターと歌)、楡井沙弥・太田綾希(ソプラノとピアノ)、ピラス、池野心結(ピアノ)、アンデスの笛、小川菜々・磯島沙弥(二胡)
曲目 真夏の夜の夢 青春の輝き また逢う日まで
ヘッドライト テールライト シルクロード 糸他

後記

今後共皆様方からの本誌へのご要望・ご意見、そしてご投稿をお気軽に御寄せ下さいます様お願ひ申し上げます。

編集 寺報編集委員会

印刷 (株)小田